

主な施策の取組状況

重点戦略1 明日へつなぐ



(1) 地域農業の持続的な発展

① 新規就農者の育成

○ 経営発展・法人化研修会を開催

- 最近、農業経営の改善や円滑な事業継承に向け、法人化(会社経営)を目指す農業者が増えています。
- 農業経営の法人化には、社会保険制度や税制上の義務に係る知識が必要であることから、農業経営の法人化を志向する農業者に対し研修会を実施しました。
- 研修会には、農業経営者をはじめ、農業団体など、延べ30名が参加しました。
- 今後も、本県農業の持続的な発展を目指し、引き続き、法人化の支援をしていきます。



講義 農業経営の法人化の具体例 (第2回)

(経営技術課)

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

○ 新規就農者サポート機関の充実・強化

- 新規就農への第一歩は就農相談から始まります。就農希望者個々の夢や目標を聞き、技術習得、資金や農地の確保、就農計画づくりのサポートが必要です。
- そこで、市町や農業団体等の相談窓口担当者を対象に、就農相談に必要な基本的な知識・スキルを習得する研修会のほか、研修受入機関担当者を対象として指導方法やコミュニケーション能力などのスキルアップに向けた研修会を開催しました。
- 今後もこのような研修を定期的に行い、就農希望者の受入体制の充実を図っていきます。



研修機関での話し合い



就農相談窓口担当者研修会

(経営技術課)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

① 新規就農者の育成

○ 経営者育成研修会及び雇用就農希望者向けの法人見学ツアーを開催

- 農業分野で雇用を確保していくためには、働き手が安心してスキルやキャリアを高められる環境づくりが重要であることから、栃木県農業士会、女性農業士会、とちぎ農業経営・就農支援センターとの共催により、「農業を働きやすく選ばれる職場へ」をテーマに研修会を開催し、108名が参加しました。
- また、雇用就農希望者を対象とした、畜産、花き、いちごなどの生産現場の見学ツアーを2回実施しました。合計35名が参加し、労働環境や給与制度など、活発な意見交換が行われました。
- 今後も、これらの雇用確保の取組を強化していきます。



とちぎの未来を担う経営者
育成研修会



法人見学ツアー
(経営技術課)

○ アグリトークin河内を開催(河内地域)

- 就農予定者や研修生が、先輩農業者のほ場視察や参加者相互の意見交換を行うことにより、新規就農に向けた具体的なイメージを確立するとともに、仲間づくりと地域への定着を促す目的で令和3(2021)年度から開催しています。
- 令和6(2024)年度は、6月に全品目の就農予定者向けに、11月にいちごの就農予定者向けに開催し、先輩農家から就農に向けた具体的なアドバイス等をいただきました。
- 次年度以降も研修生と先輩農家の相互交流により、円滑な就農に向けた支援を行っていきます。



意見交換



先輩ほ場で交流

(河内農業振興事務所)

（１）地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

① 新規就農者の育成

○ 地域担い手の確保を目的とした就農支援組織の研修体制の拡充支援（塩谷南那須地域）

- ・ 塩谷南那須地域では、3つの就農支援組織で研修生を受け入れ、新規就農者の確保に取り組んでいます。
- ・ いちごや梨、スプレーマム等の品目で農作業体験会や就農相談会等を実施しています。
- ・ 今後は、新たな品目や地域独自の就農相談セミナー開催を支援し、新規就農者の確保・育成につなげていきます。



梨農作業体験会



スプレーマムほ場見学会

（塩谷南那須農業振興事務所）



(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ とちぎ広域営農システム構築に向けた取組

- 令和6(2024)年度は、7地区で広域的な営農体制が始動するとともに、10地区が「話合いの段階」から、「地域の対応方策が明確になる段階」に進むなど、大きく進展しました。
- また、栃木県農業担い手躍進大会では、持続的な農業を確立するため、「未来につなぐとちぎの担い手の姿」をテーマに講演会を開催し、地域農業の中核を担う農業者等179名が参加しました。
- 今後は、モデル的な取組を県全域に波及させ、担い手と多様な人材が参画する持続的な農業の確立を進めていきます。



栃木県担い手躍進大会

(経営技術課)

○ 上稲葉地区広域営農システム構築で「株式会社かみいなば」設立(下都賀地域)

- 上稲葉地区圃場整備事業推進協議会は営農部会の中で検討を重ね、そのうちの有志4人を役員として令和6(2024)年11月に地域の担い手法人組織「株式会社かみいなば」が設立されました。
- 当面は、構成員所有の農業機械を活用して令和7(2025)年産の麦作からスタートし、徐々に農地を借り受け、順次経営面積を拡大していく予定です。
- 10年後は、雇用就農希望者を採用し、地域の農地80ha程度を経営したいと考えています。



営農部会での話合い風景



宇都宮市海道地区への視察

(下都賀農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 下都賀地域次世代営農システム推進研修会の開催(下都賀地域)

- 近年、地域の農地を守る担い手である集落営農組織等では、構成員の高齢化や後継者不足といった問題を抱え、将来の農地の維持管理の困難が懸念されています。
- 令和7(2025)年3月、集落営農組織や土地利用型農業認定農業者、並びに農業委員や農地利用最適化推進委員、JA等を参集し、将来の地域営農の在り方について研修会を開催しました。
- 「サステナブルな地域営農の可能性を探る」をテーマに基調講演やパネルディスカッションを行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。



可知祐一郎先生の基調講演



パネルディスカッション
(下都賀農業振興事務所)

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

○ 農地の受け皿となる法人の育成(那須地域)

- 地域営農の持続的な発展に向け、大田原市の北滝・片田集落では、座談会の開催等により集落構成員の合意形成を図り、令和6(2024)年3月、集落内の農地調整を担う「北滝・片田農用地利用組合」が設立されました。
- さらに、担い手組織の設立に向け、担い手座談会や、先進地視察を実施するとともに、経営相談会での税理士による法人化指導を行いました。
- 今後は、新たに設立される法人を中心とした担い手の経営発展及び連携を推進し、作物ごとの団地化による効率的な営農体制の構築を支援していきます。



先進地視察



経営相談会での法人化指導
(那須農業振興事務所)

(1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

② 未来へつなぐ広域営農の実現

○ 法人化による集落営農組織の経営力強化支援(安足地域)

- ・ 名草集落営農組合では、40代の新たな組合長が就任したことを契機に、多様な人材が参画する組織として、同組合の法人化を検討することとなりました。
- ・ 農業経営個別相談会やとちぎ農業経営・就農支援センターを活用し、法人化や資金繰りについて知識を深め、令和6(2024)年7月に名草集落営農株式会社が誕生しました。
- ・ 今後も、営農活動や農業体験を通して、地域の担い手としての活躍が期待されます。



農業経営個別相談会の
助言・指導



稲刈り体験
(安足農業振興事務所)



(1) 地域農業の持続的な発展

③ 他業種との相互連携の強化

○ ノウフクの日in栃木県庁を開催

- 国では、今年度から、11月29日をノウフクの日と定め、関係団体・企業等が連携し、農福連携の普及啓発に取り組んでいくこととしました。
- そこで、本県では「ノウフクの日 in 栃木県庁」を開催し、県庁内食堂での農福連携メニューの提供や生協売店イベントコーナーでのノウフク商品の販売などを行い、農福連携の魅力を発信しました。
- 今後も、農福連携の取組拡大に向けて、県民への更なる理解促進や認知度向上を図っていきます。



福祉事業者によるノウフク商品販売の様子



県庁内食堂で提供した農福連携メニュー

(農政課)

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

○ 下都賀地方農業振興トップセミナーの開催（下都賀地域）

- 地域農業を支える担い手として、企業の農業参入が注目されています。
- 小山市を中心に農業を営む「(株)エイジェックファーム」をグループ会社に持つ、エイジェックグループ代表取締役社長の古後昌彦氏らを講師に迎え、「企業から見た農業の可能性」をテーマに、セミナーを開催しました。
- 農業分野へ企業が参入する場合の課題や就農環境を盛り上げていく必要性について講演をいただきました。



トップセミナーの会場



講演の様子
(下都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

① 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 「未来へつなぐとちぎ農業フォーラム2024」を開催

- 若者の就農意欲を喚起し、次代を担う農業人材の確保・育成を図るため、農業を学ぶ学生等約400名が参加し、若手農業者との意見交換を行いました。
- 稲作と6次産業化に取り組む女性経営者や農業大学校等で学び農業法人で牧場長として働く雇用就農者からの事例発表後、パネルディスカッションを行い、学生の将来の夢・目標に対し、若手農業者から実践的アドバイスが送られました。
- 開催前後に実施したアンケートの結果、「農業へ魅力を感じる」、「将来職業として農業をやりたい」と思う学生の割合が増加しました。



フォーラムの様子



(経営技術課)

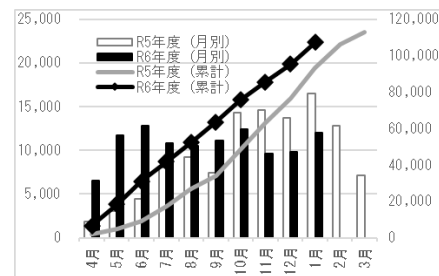
新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 県内外・農内外からの就農相談が増加

- 本県農業の担い手を県内外から呼び込むため、就農支援サイト「トチノ」で本県農業の魅力や先輩農業者の活躍する姿を発信してきたところ、トチノを介しての就農相談数が110件を超えました。
- また、令和6(2024)年10月に就農相談会「トチノフェア」を開催したところ、県内外から参加した62名は、市町や団体の39ブースにおいて、就農に向けた技術研修や農地の確保、資金調達等について熱心に相談をされていました。
- 今後も、情報発信を強化し、農作業体験や就農相談等をおし、着実に就農できるよう支援していきます。



トチノフェア



トチノへのアクセス数の推移

(経営技術課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

① 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 農業大学校で農業関連高校とのオンライン授業が充実

- 農業を学ぶ学生の就農意欲を喚起するため、農業大学校と農業関係高校を結んだオンライン授業を4校で実施しました。
- これまでの「梨」に加えて、本年度から新たに「ぶどう」の摘粒や「乳牛」の搾乳作業についてオンライン授業を行いました。
- また、第34回全国産業教育フェア栃木大会では、白楊高校生と連携し、「梨」のVR教材の体験を実施し、文部科学大臣に映像等をご覧いただきました。
- 今後もオンラインによる高大接続教育を推進し、就農意欲の喚起や技術習得の支援行っていきます。



オンライン授業



「梨」のVR教材の体験

(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 雇用定着に向けた研修会を開催

- 農業経営には、人材を確保し定着を図ることが重要なことから、各地域において雇用定着に向け研修会を実施しました。
- 研修会では、雇用主や現場の作業リーダーが、人を育成する際に必要な知識や支援スキル等を習得し、雇用就農者等の定着促進が図られるよう、専門家(社会保険労務士)から労務管理や人材育成の実務を説明しました。
- 引き続き、雇用就農者等の定着促進に向けた取組を行っていきます。



労務管理・人材育成研修



人材マネジメントと人材活用研修

(経営技術課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

① 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 海道いちご団地における新規就農者確保の取組(河内地域)

- 宇都宮市海道地区においては、圃場整備事業を契機として「いちご団地」を創設し、8名が新規就農者として経営を開始するとともに、14区画全てで就農者(予定者も含む)が決まりました。
- 関係機関・団体による経営支援チームが、技術習得の支援、経営指導、補助・融資相談など、経営が軌道に乗るまでサポートする体制を整え、重点的に指導を行っています。
- また、就農者による「いちご団地利用組合(Strawberry海道Village)」に対して、現地検討会や視察研修、栽培反省会などの活動を支援しました。



現地検討会



いちご団地の状況
(河内農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 梨の園地継承による新規就農を支援(芳賀地域)

- JAはが野梨部会が実施した経営意向調査では、後継者不足などで規模縮小を示す方が増えており、耕作できない園地の増加が見込まれます。
- そこで、継承可能な園地と新規参入者をマッチングするため、園地の見学会や作業体験会、農業インターン(短期研修)を実施した結果、令和8(2026)年度就農を目指す2名の研修開始が決定しました。
- 今後も本取組を継続・発展させて、農業経営のバトンをつなぎ、地域農業の持続的な発展を支援していきます。



就農相談の様子



短期研修の様子
(芳賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

① 将来を担う新規就農希望者の確保

○ 足利市就農体験講座で新規就農塾をPR (安足地域)

- ・ 新規就農者確保と新規就農塾をPRする目的で足利市主催の就農体験講座の開催を支援しました。
- ・ 新規就農塾を経て新規参入した先輩農家のハウス見学と情報交換会を計3回実施し、延べ19名が参加しました(第1回11月いちご6名、第2回12月トマト6名、第3回1月いちご講座&個別相談会7名)。
- ・ 先輩農家との情報交換により就農への理解促進が図られ、うち研修希望者2名と、就農に係る相談を継続しています。



12月トマト農家見学



1月いちご農家見学
(安足農業振興事務所)



(2) 意欲ある人材の参入促進

② 女性が活躍する環境づくり

○ 女性が中心となった新たなアグリビジネスを支援

- 女性農業者を対象として、雇用・労務管理、マーケティング、ブランディングなどのスキルを習得する研修会を全8回開催し、受講者それぞれの課題解決に向けたプランニングを実施しました。
- また、キャッサバを使った料理や甘茶などの商品開発や「食×絵本×農×音楽」を組み合わせたマルシェの開催などのトライアル活動を支援しました。
- 今後も、女性農業者アグリビジネスセミナーの開催やトライアル活動の支援等により、女性が中心となった新たなアグリビジネスの創出につなげていきます。



アグリビジネスセミナー



びいなすLabo交流会
(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 輝く女性農業者がつぎつぎに！

- 農山漁村で女性の活躍推進に貢献した個人・団体を表彰する「農山漁村女性活躍表彰」において、大田原市農業委員会が女性地域社会参画部門で、那珂川町の小林千歩氏が若手女性チャレンジ部門で、最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。
- 若手女性チャレンジ部門で県内で初の受賞、また、女性地域社会参画部門では、令和4(2022)年度の日光市農業委員会、令和5(2023)年度のとちぎ女性農業委員の会に続き3年連続での受賞となりました。
- 今後も、未来を創る女性農業者を育成を図っていきます。



大田原市農業委員会



小林千歩氏(那珂川町)
(経営技術課)

(2) 意欲ある人材の参入促進

② 女性が活躍する環境づくり

○ 農村女性リーダー研修会の開催(河内地域)

- 河宇地区農村女性会議に所属する組織が合同でリーダー研修会を開催しました。
- 研修会では、グリーン・ツーリズム活動が盛んな大田原市の農家民泊で実際の講座を体験するとともに、6次産業化のプロデュースに携わる講師による講演を聴講するほか、農業女子プロジェクト組織の立ち上げや、加工品開発、県内外でのマルシェ出店などについて幅広く学びました。
- 研修会をきっかけに、女性が一歩前に踏み出し、地域全体の活性化が図られることを期待しています。



リーダー研修会での
視察研修



研修先との意見交換
(河内農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ かみつが農業女子の活動支援(上都賀地域)

- 「かみつが農業女子」では、令和6(2024)年にメンバーが17名となり、それぞれが抱える悩みや課題の共有化を図るため、東洋大学蜂巢ゼミ生と連携して、課題解決に取り組むこととしました。
- お互いを知ろうという目的でそれぞれの生産現場を訪問し、リーフレットを作成しました。また、かみつが農業女子の活動をPRするために、日光市や栃木県庁でのマルシェに出店しました。
- 各自やってみたいことが明確化され、メンバー同士や、学生と一緒に活動する機会が増えています。



蜂巢ゼミ生と交流



マルシェへの出展
(上都賀農業振興事務所)

(2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

② 女性が活躍する環境づくり

○ 土地改良区女性参画推進のための研修会の開催について(下都賀地域)

- とちぎ水土里ネットの女性会では、「私たちみんなが主役」を合い言葉に、女性の方針決定の場への参画を積極的に推進しています。
- 県南部地方土地改良区推進協議会では、土地改良区の運営をスムーズに進めるには、職員間の交流や女性職員の活躍が重要と考え、女性会と共同で、女性職員研修会を開催しました。
- 勉強会や地元の食材を使った調理実習をとおして交流が図られ、改良区内の身近な問題や課題解決に向けた取組について活発な意見交換がなされました。



講師による勉強会の様子



調理実習の様子
(下都賀農業振興事務所)



(2) 意欲ある人材の参入促進

③ 多様な人材の確保・育成

○ 外国人材活用促進セミナーの開催

- 外国人材の円滑な雇用に向け、県内企業、農業従事者等を対象としたセミナーを開催しました。
- 令和6(2024)年6月に人手不足分野における人材の育成・確保を目的とする育成就労制度が創設されたことから、セミナーでは育成就労制度や県内の外国人活用事例等の説明及び参加者との意見交換を行いました。
- 今後も、外国人材の活用に向け、適切な受入れ体制の確保や、新たに始まる育成就労制度の留意点などについて、関係者間の情報共有を進めていきます。



「育成就労制度」の解説



外国人の受入事例の紹介

(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

○ 「農ある暮らし」体験講座 & 相談会を開催(上都賀地域)

- 農村地域への移住・定住を考えている人や日常生活に農業を取り入れたい人を対象に、「半農半X」や「農ある暮らし」を広めるためのイベントを開催しました。
- 「農」ある暮らしアドバイザーである大関浩司氏(有限会社 大関種苗園)を講師に迎え、初心者向けの野菜作りや花の寄せ植え体験講座と、「半農半X」や「農ある暮らし」に関する相談会も実施しました。
- 今後も、農業や農村に興味を持つ人を増やすための様々なきっかけづくりに取り組んでいきます。



農ある暮らしアドバイザーによる講座



花の寄せ植え体験

(上都賀農業振興事務所)